

**基本練習問題 24-1**

<解答>

		<u>損益計算書</u>	
I	売上高		595,000
II	売上原価		
	1. 期首製品棚卸高	12,000	
	2. 当期製品製造原価	<u>377,000</u>	
	合計	389,000	
	3. 期末製品棚卸高	<u>22,000</u>	
	差引	367,000	
	4. 原価差異	<u>2,000</u>	<u>365,000</u>
	売上総利益		230,000
III	販売費及び一般管理費		<u>139,000</u>
	営業利益		<u>91,000</u>

**【解説】**

期首製品棚卸高は製品勘定の前期繰越、当期製品製造原価は製品勘定の仕掛品、期末製品棚卸原価は製品勘定の次期繰越がそれぞれ対応する。

製造間接費の予定配賦が行われている場合、仕掛品勘定や損益計算書には製造間接費の予定配賦額を計上し、実際発生額との差異を原価差異の欄で調整する。

製造間接費の予定配賦額は仕掛品勘定の製造間接費の金額 94,000 円である。したがって、予定配賦額 94,000 > 実際発生額 92,000 より 2,000 円の貸方差異である。貸方差異の場合、予定配賦によって製造間接費を実際よりも多く計上してしまったため売上原価から減算する。したがって、売上原価は  $367,000 - 2,000 = 365,000$  円となる。

なお、資料 4 にある販売費（製造活動と直接の関連がない広告宣伝費など）、製造に関わらない従業員や役員の人件費、製造と関わらない施設（本社ビルなど）の減価償却費などはすべて損益計算書の「販売費及び一般管理費」の項目に記入する。